May 6, 2014　キリシマミドリ幼虫

蝶友の北原氏からいただいたキリシマミドリシジミの越冬卵から孵化した幼虫 3 頭を確認し、アラカシの新芽を与えてきたが、無事に成育してくれたのは今回もただの 1 頭となっている。遅く孵化した若令幼虫 2 個体を早くに孵化して大きくなっていた幼虫が共食いした可能性を否定できないが、北原さんには誠に申し訳ない状況。ビデオカメラの汚れた液晶画面に保護フィルムを貼り付けた結果、汚れ部の乱反射がみごとに消えて、元の見やすい画面が復活した。こんなことなら、もっと早く保護フィルムを利用すればよかった。なお、前回の飼育では蛹化段階で行方不明となった幼虫がベッドの下で蛹化しているのを掃除中の妻が見つけてくれたのだが、蛹を移動させたのがあだとなったのか羽化してくれなかった。今回は、蛹化段階での脱走を回避させるべく、容器内に閉じ込め、落葉をしきつめてその間での蛹化を期待したい。

May 9, 2014　キリシマミドリシジミ終令幼虫

キリシマミドリシジミ終令幼虫の体色が一段と赤味を帯びてきた。体長 16mm。そろそろ蛹化が近いと思われる。それにしても、このようなワラジ虫が、（♂であれば）翅表には金緑色に光り輝く鱗粉をもち、翅裏を白銀の鱗粉で覆い尽くす美麗シジミチョウに変身するとは何という自然界の不思議。

May 12, 2014　キリシマミドリシジミ蛹化

シラカシの落葉の影となる部分で蛹化準備に入っていたのが、本日（May 12, 2014）蛹になっているので裏返して撮影。角度を変えて側面のアップ記録も撮っておく。アラカシの若葉から離れて落葉の陰で静止姿勢をとった段階で前蛹化を想定できたのだが、ルーペで拡大してみても体を固定する絹糸がみつけられなかったため、再びアラカシを食べる可能性を考えて新葉も入れておいた次第で、蛹になった時点ではっきりとみることができる帯蛹固定糸が、なぜ認識できなかったのか不思議。クローズアップ撮影記録を撮っておくべきだったと反省。

May 28, 2014　キリシマミドリシジミの蛹に羽化兆候

キリシマミドリシジミに羽化の兆候が見えてきた。翅表部にみえるブルーからは金緑色に輝くオスではなく、メスだと思われる。一日経過して全体が黒ずんできている。ゼフィルスの仲間は自然

Copyright© 2008- Soft House JUMP. All rights reserved.

界でも落葉の間で蛹化する場合が多いようで、羽化後には翅を伸ばすのに適当な場所を求めて徘徊することになるわけで、飼育下では自然羽化の再現は難しい。蛹化した落ち葉を足場に翅がのばせるよう工夫してみよう。

May 28, 2014　キリシマミドリシジミ羽化

やはり羽化したのはメスだった。朝 6 時にビデオ撮影準備をしたが、翅部のブルーがはっきり見えるうちはまだ羽化しないことが分かっており、9 時頃にようやく翅部に空隙が広がってブルーが消え、10 時過ぎからビデオ録画モードの ON/OFF を繰り返して様子をみる。この間、ミヤマカラスアゲハの幼虫をキハダからコクサギへと移す作業を平行し、その間はビデオ撮影 ON としておく。そして 10 時 40 分、背中部分に割れ目が入って蛹がピクピクと動き始め、頭、前足、アンテナが出てくる。蛹を縦に配置したため、重力との闘いを強いてしまったようで、お腹部分がすべて出るまで前足と中足でかなり踏ん張る状況があってハラハラしたが、5 分ほどを要して無事に羽化。ゼフィルス類のメスには地味な褐色タイプが多いが、本種のメス前翅には常にブルーの美しい鱗粉（青斑）がちりばめられている。♂だったら金緑色の輝きが魅了するのだが、ぜいたくは言えない。翅が伸び切ったところで無理なくとまれる吹き流しへと移して、きれいな裏面の撮影記録をとる。

美しい♂の羽化とはならなかったが、安曇野市の蝶友から送っていただいた箱根産の蛹から羽化させた個体の標本があるので、本種も見る角度によってその金緑色が微妙に変化することも合わせて図示しておく。

キリシマミドリシジミ
June 4, 1989 箱根産飼育

June 14, 1989 箱根産飼育

Copyright© 2008- Soft House JUMP. All rights reserved.